

兵庫教育大学地理学研究室における研究動向

南 埜 猛

キーワード：地理学，修士論文，卒業論文，兵庫教育大学地理学研究室報告

1. 兵庫教育大学地理学研究室

兵庫教育大学は、1978（昭和 53）年 10 月に開学し、1980（昭和 55）年 4 月から大学院修士課程¹⁾の学生を受け入れ、学部²⁾の学生の受け入れは 1982（昭和 57）年 4 月からである。また大学院博士課程³⁾は 1996（平成 8）年 4 月からである。

地理学関係の教員は、開学準備室のスタッフでもあった白井義彦先生（以下、敬称略）が 1979（昭和 54）年 9 月に着任されている。続いて、1981（昭和 56）年 4 月に成瀬敏郎先生（以下、敬称略）、1982（昭和 57）年 4 月に藤井宏志先生（以下、敬称略）、そして 1983（昭和 58）年 4 月に吉本剛典先生（以下、敬称略）がそれぞれ着任され、自然地理学担当（成瀬）、人文地理学担当（白井）、地誌担当（藤井）ならびに助手（吉本）の最初の体制が整えられた。なお教員スタッフではないが、自然地理学（水文学）を専門とする市川正巳先生が 1981（昭和 56）年から 1984（昭和 59）年 11 月まで副学長を務められ、その後転出されている。

その後の地理学研究室の体制は、図 1 に示すとおりである。成瀬は 1989（平成元）年 4 月に、藤井は 1993（平成 5）年 4 月に、それぞれ教授に昇任している。また吉本も 1992（平成 4）年 4 月に助教授、2005（平成 17）年 7 月には教授に昇任している。1997（平成 9）年 4 月に南埜猛が助手として採用され、その後、2000（平成 12）年 5 月に助教授（後に准教授）、2014（平成 26）年 4 月には教授に昇任している。

一方、白井が 1994（平成 6）年に愛知学院大学へ⁴⁾、2000（平成 12）年に藤井が安田女子大学へとそれぞれ転出した。また成瀬は 2000（平成 12）年に総合学習系教育講座開設に伴い同講座へ移籍し、2008（平成 20）年に定年退職している。さらに 2019（平成 31）年 3 月に吉本が定年退職し、2019（平成 31）年 4 月以降の地理学関係の教員は、本稿執筆時点では南埜 1 名となる予定である。

兵庫教育大学地理学研究室は、上記 5 名の教員ならびにそれぞれのゼミに所属する学生によって組織し、大学院の修士論文中間発表会ならびに学部の卒業研究発表会を運営してきた。また、1996（平成 8）年 3 月に、修士論文と卒業論文をまとめた学術論文を掲載する『兵庫教育大学地理学研究室研究報告』⁵⁾が創刊され（写真 1）、最新号は本号の第 24 号（2019（平成 31）年 2 月発行）である。『兵庫教育大学地理学研究室研究報告』のほかに、1989（平成元）年に、兵庫教育大学地理学研究室編『加東台地の開発と地域変容-兵庫県杜町研究学園都市の自然と社会をめぐって-』を発行している（写真 2）。同書は、白井が研究代表者として編集した兵庫教育大学地域研究会編『都市化に伴う地域社会の発展-研究学園都市の自然と社会をめぐって-』（1981（昭和 56）年発行）をベースとする定点調査・研究として位置づけられる（写真 2）。

教育研究環境については、2010（平成 22）年 2 月に、教育・研究用設備整備の概算要求が認められ、「教育実践のための地図処理システム」が導入された⁶⁾。

2. 修士論文と卒業論文のデータベース

（1）データベースの作成と分析方法

地理学研究室の修士論文と卒業論文のデータベースを作成するにあたって、基礎資料と

したのは「兵庫教育大学図書館修士論文データベース」⁷⁾，社会系内資料卒業論文一覧，兵庫教育大学・社会系・地理学教室名簿第1版（1992年発行），学籍簿などである。対象とする学生は，前述のとおり白井，藤井，成瀬，吉本，南埜のゼミに所属し，かつ本稿の注1)で示した社会系教育関係の大学院修士課程の講座・コースに所属する大学院生と注2)で示した学部の社会系教育関係のコースに所属する学部生である。

入学年度ごとに整理した結果は，修士論文が資料1，卒業論文が資料2のとおりである。なお，成瀬が総合学習系教育講座で指導した学生の卒業論文は本データベースには含んでいない。それらの学生の論文は、『兵庫教育大学地理学研究室報告』に掲載されており，資料3を参照いただきたい⁸⁾。

分析に当たり，分析基準年を設定した。留年などの個々の学生の理由で，学生によりそれぞれの修士論文や卒業論文の完成年は異なる。本データベースの作成にあたっては，時間的制約もあり，それらの点を加味して整理することができなかった。通常，修士論文の提出は入学から2年後であるので，一律に入学年に2を加えた年を分析基準年と設定した。具体的には，第1期生の場合，入学年は1980（昭和50）年であるので，分析基準年は1982年である。同様に卒業論文については，4を加えた年を分析基準年と設定し，以下の分析に用いた。

（2）論文数の推移

これまでの地理学研究室の論文総数は299本である。そのうち修士論文が105本，卒業論文が194本である。分析基準年ごとに修士論文と卒業論文の動向を示したのが図2である。1980年代前半は草創期で最初の4年間は修士論文のみである。1982年は5本，翌年の1983年は1本，そして1984年6本，1985年1本というように，年によって本数が大きく変動している。1980年代後半になると卒業論文が加わり，1986年は合わせて14本となっている。その後1990年代後半までは，1987年を除いて修士論文と卒業論文を合わせて毎年10本以上の論文が提出されている。

2000年代以降で10本に達したのは2003年と2017年のみであり，1990年代までと比べて，論文数は少なくなっている。また論文数に波がみいだせる。これら動向の要因の一つは，図1に示すように地理学関係の教員が転出・退職し，さらに成瀬が総合学習系教育講座へ移籍する一方で，新たに採用された教員は南埜のみで人事凍結がなされていることがあげられる。また南埜の病気による休職やサバティカルにより，学生の受け入れができない期間があったことが要因としてあげられる⁹⁾。

3. 研究分野と研究対象地域

（1）研究分野

地理学の分野は，大きく系統地理学と地誌に分けられ，系統地理学はさらに研究視点により自然地理学と人文地理学に分けられる。修士論文と卒業論文の題目をもとに，それら3つの分野に分け，年ごとの論文数の割合を示したのが図3である。

分野別にみると全体の25.1%が自然地理学であり，73.1%が人文地理学，そして地誌としての論文はわずかに3本の1.0%であった。修士論文と卒業論文に分けて集計してみると，修士論文では自然19.0%，人文80.0%，地誌1.0%であり，卒業論文では自然28.4%，人文70.6%，地誌1.0%であった。

地理学関係教員の専門分野は，白井，藤井，吉本，南埜が人文地理学であり，自然地理学は成瀬のみである。試みに，助手の期間を除いたそれぞれの教員の指導年数を算出してみると，白井14年，成瀬27年，藤井18年，吉本27年，南埜19年であり，人文地理学を専門とする教員の合計は78年に対して，自然地理学は27年である。その割合は，前述

の分野別にみた全体の割合とほぼ同じである。

年代ごとにみると、1990年代後半から2000年代前半は自然地理学の割合が高い。しかし、2007年以降は自然地理学の論文はなくなり、すべて人文地理学の論文となっている。これは成瀬が2008年に退職し、その後、自然地理学を専門とする教員が不在となっていることが強く反映している。

(2) 研究対象地域

299本の論文のうち、論文題目より地域が特定できる論文が262本であり、不明が37本であった(図4)。地域が特定されない論文は、「資源管理と人間環境系に関する研究」といった理論研究や「初等社会科教育におけるGISの活用と実践」などの教育に関する研究である。

地域を特定した論文の84.4%が国内研究あり、海外研究は41本の15.6%であった。国内研究の都道府県別の分布を示したのが図5である。兵庫県が最も多く、65.6%と大部分を占めている。青森を除く東北地方や関東地方での研究は全くない。一方、中部地方より以西の地域ではほとんどの府県で研究がみられ、一番多い兵庫県の次は、岡山県の7本である。以下沖縄県6本、鳥取県5本となっている。なお論文題目に地誌と明示した論文の研究対象地域は、サンマリノ、ハンガリー、神戸市北区である。

海外研究は日本を除くアジアが31本と最も多く、そのうち10本が中国である。続いてトルコ6本、韓国4本、台湾が3本となっている。このほかの研究対象地域にはベトナムやネパールなどがある。ヨーロッパでは、オランダやハンガリーなどを研究対象地域とする論文がみられ、アメリカにおいてはガテマラでの研究がなされている。オセアニアはいずれもパラオの地域研究である。

(3) 研究内容

修士論文と卒業論文の研究内容は、ともに指導教員の研究と深くかかわっている。白井ゼミでは水利研究や水利組織(土地改良区)を対象とした研究が多い。成瀬ゼミでは地形ならびに古環境の復元の研究やレスの研究が多く、研究対象地域も日本海に面した道府県や韓国、トルコなどの成瀬自身の研究にかかわったものが多い。藤井ゼミでは、観光、地場産業、移民など多様な観点からの地域研究がなされ、海外ではパラオの地域研究がなされているのが目を引く。吉本ゼミでは旅行やカメラなど学生の興味や関心を研究の中心すえたユニークな研究がなされ、また南埜ゼミでは溜池にかかわる研究のほか教育やGISにかかわる研究がなされている。

これまで地理学研究室で受け入れた留学生は、学部が1名で台湾から、大学院の8名は中国からである。いずれも母国を研究対象地域とするもので、中国を研究対象とする論文10本中8本が中国からの留学生の論文である。

4. 地理学研究室報告

前述のとおり、『兵庫教育大学地理学研究室研究報告』は1996(平成8)年3月に創刊された。本号で第24号となる。2005(平成17)年には、逐次刊行物を識別するための番号であるISSN(国際標準逐次刊行物番号)を取得し、第10号以降は「1349-984X」の番号が振られている。これまで、2000年と2011年に発行がなされなかったため、それぞれの翌年に合併号として発行している。

第1号から第10号までの掲載論文等一覧は第10号に掲載されている。そこで、第11号から第24号までの掲載論文等をまとめたのが、資料3である。第11号以降の掲載論文タイトル一覧をみると、第11号では、それまでの号と同様に、[巻頭言]、[修士論文]、

〔卒業論文〕の構成で編集がなされている。それら掲載論文には成瀬が指導した総合学習系教育講座の学生の論文も含まれている。第 14 号からは修士論文と卒業論文の区別をなくして、〔論文〕として一まとめにした構成となっている。第 15 号以下では、それまで〔寄稿論文〕としていた教員の論文を、〔研究ノート〕として掲載するようになった。第 14 号の掲載論文にみるように、この頃から中国からの留学生増えている。また第 20 号からは、他大学の学部を卒業した学生の卒業論文をまとめた論文の掲載もなされ、〔書評〕もあらたに加わっている。

以上のように、『兵庫教育大学地理学研究室研究報告』は号を重ね、試行錯誤を重ねながら、内容の充実が図られてきたといえる。

5. おわりに

地理は、中学校社会において歴史的分野、公民的分野とともに 3 分野の一つを占め、小学校社会科では、3・4 年生が地域学習、5 年生は産業学習を中心とする内容となっており、地理とのかかわりの深い学習が多くを占めている。一方、高等学校で地理は長らく選択科目となっている。

兵庫教育大学の学部は初等教育教員養成課程で、学生の多くは高等学校で地理を選択していない。しかしながら、本稿で明らかとなったように、開学以来、多くの学生が地理学関係教員のゼミに入り、地理学の研究に取り組んできている。そしてこれまで 300 近くの論文が作成されてきた。近年では論文数が減っており、とくに自然地理学の論文は皆無となっている。本稿の分析結果が示すように、地理学の研究分野別にみたときには、それぞれの分野の論文数は、教員の専門分野と人数と指導年数の合計に比例し、本学の学生にとってなじみが少ないと思われる自然地理学の研究も多くなされてきた。自然地理学はもとより地理学が本学の学生にとってニーズが無いわけではない。近年の論文数の減少は、担当教員の配置と深くかかわっているといえる。

さて 2019 年に告示された高等学校の新学習指導要領では、「地理総合」が必修科目となった。先に指摘したように、小学校ならびに中学校の社会科において地理とのかかわりの深い学習が大きな割合を占め、それ故に小学校や中学校社会を担当する教員にとって地理学の素養は必要なものである。地理学の学問としての特徴の一つは、人文と自然の両分野にまたがっている点にある。近年では、統合的な思考が重視されており、防災・減災学習、コンピテンシーベースの学習などが求められている。地人相関、文理融合、人間の営みを自然環境で捉える地理学は、それら思考や学習の習得において有効な学問であると考ええる。本学においても、人文地理と自然地理の適切な教員配置が望まれる。また地理学研究室では、早い時期に「教育実践のための地図処理システム」を導入し、他の教育大学に先んじて地理情報システム (GIS) への取り組みを行ってきた。しかし同システムは導入してから 10 年が経過し、陳腐化が進んでいる。新たに設置される高等学校の必修科目「地理総合」において GIS は 3 つの柱の一つに位置付けられている。本研究室が積み上げてきた GIS にかかわる教育研究に関する蓄積を活かすためにも、同システムの早期の更新が求められる。

本稿の作成にあたり地理学研究室の修士論文と卒業論文のデータベースを作成した。その中で、『兵庫教育大学地理学研究室研究報告』がマイルストーンとして極めて有効な存在であることを再確認することができた。同誌の発行を提案したのは、大学院 15 期生の竹部嘉一氏である。費用負担を含め、その作成や継続性を危惧する意見もあった。しかし、同氏の強い意志と行動力で創刊号が作成され、その後も地理学研究室に所属する学生が主体となって発行を継続してきた。その過程で、研究室報告の作成マニュアルが作成され、PDF 形式の版下作成、プリンタで出力、さらに表紙の作成と製本に至るすべてを大学内の

備品・設備を用いて作成されている。まさに手作りの研究報告である。このような冊子作成に関する知識や技能は教員に求められる基礎的能力であり、教員養成の教育上これら作業は教員の資質育成という点でも意義があると考ええる。

『兵庫教育大学地理学研究室研究報告』の創刊号からの全号は、兵庫教育大学附属図書館ならびに国立国会図書館に寄贈・保管されている。また吉本剛典教授退職記念事業に合わせて、『兵庫教育大学地理学研究室報告』の掲載論文を兵庫教育大学図書館のリポジトリ (HEART Hyokyo Institutional Repository)¹⁰⁾ に登録することを計画している。

地理学研究室は、来年度より地理学・地理教育研究室として、本稿で確認した伝統を引き継いでゆきたいと考える。

本稿を作成するにあたって、石井瑛之さん、岳碧琳さん、石堂友都さん、鄭泳權さんに資料の整理や研究分野・研究対象地域の検討などの協力をいただきました。また研究支援課の皆さんにも情報収集に協力いただきました。記して、お礼を申し上げます。

注

- 1) 大学院修士課程は、開設当初は教科・領域教育専攻／社会系教育講座であった。その後の大学改革により、2006（平成 18）年 4 月からは教科・領域学専攻／社会系コース、2011（平成 23）年 4 月から教育内容・方法開発専攻／認識形成系教育コース社会系教育分野、さらに 2016（平成 28）年から教科教育実践開発専攻／社会系教育コースとなった。そして 2019（平成 31）年 4 月から社会系教育関係の修士課程はなくなり、専門職学位課程の教育実践高度化専攻／社会系教科マネジメントコースとなる。
- 2) 学部は開設、当初、初等教育教員養成課程であり、その中の教科・領域教育専修／社会系専修コースであった。2000（平成 12）年 4 月からは教科・領域教育専修／社会系コースとなった。2018（平成 30）年 4 月から課程は学校教育教員養成課程に名称変更され、また 2019（平成 31）年 4 月からは教科単位のコース制が廃止される。
- 3) 大学院博士課程は、後期 3 年のみの博士課程で、兵庫教育大学のほか上越教育大学、岡山大学、鳴門教育大学を構成大学とする兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科である。地理学関係の教員は同研究科の教科教育実践専攻／社会系教育連合講座に属する。なお 2019（平成 31）年 4 月からは、岐阜大学と滋賀大学が構成大学に加わる。
- 4) 白井義彦先生は、2012（平成 24）年 9 月 18 日にご逝去された。
- 5) 創刊号のみ『兵庫教育大学地理学教室』の名称が用いられた。第 2 号以降の雑誌名は『兵庫教育大学地理学研究室』である。
- 6) 「教育実践のための地図処理システム」については、『兵庫教育大学地理学研究室報告』第 15 号に掲載した吉本剛典・南埜猛「教育実践のための地図情報処理システムの構築」を参照のこと。
- 7) 兵庫教育大学修士論文等論題データベースの URL は、<https://www.lib.hyogo-u.ac.jp/db/thesis/> である。
- 8) 同様に、博士論文についても本データベースは含んでいない。これまで兵庫教育大学大学院連合学校教育研究科において地理学関係教員が指導した博士論文に、M.E.K.Chowdhury「Eolian dust deposition and monsoon changes in the Japanese islands since the last interglacial period（最終間氷期以降における日本列島の風成塵堆積とモンスーン変動）」（2001 年課程博士、『兵庫教育大学地理学研究室報告』第 7 号に掲載）と室谷茂「国名と地名からみたアジア文化地域の考察とその比較研究」（2006 年論文博士）がある。また地理学研究室 OB では小野間正巳「意思決定能力を育成する協働提案型小学校社会科授業モデルの開発研究～意思決定カテゴリーに

よる授業分析をとおして」(2018 年課程博士)がある。なお、本地理学研究室 OB の多くは小学校・中学校・高等学校の教育現場や教育委員会で活躍されている。教育関係以外にもコンサル会社や公務員など多様な職種で活躍されている。さらに南埜（院 8 期・学部 2 期）のほか、小野間正巳（院 1 期，関西福祉大学），伊藤善文（院 3 期，甲南大学），内田和子（院 4 期，岡山大学），三宅康成（院 9 期・学部 3 期，兵庫県立大学），笠木秀樹（院 15 期，岡山県立大学），矢田貝真一（院 19 期，大垣女子短期大学），梁海山（院 26 期，中国・赤峰学院資源・環境科学院）などが大学教員となり，研究者養成機関としての役割も果たしている。

- 9) このような状況のもと，加藤茂弘先生（兵庫県立人と自然の博物館）に自然地理学概説と自然地理学演習（2008（平成 20）年度～2018（平成 30）年度），竹部嘉一先生（大阪府立八尾翠翔高等学校）に自然地域論と地誌学特論（2008（平成 20）年度・2009（平成 21）年度），室谷茂先生（神戸市立摩耶兵庫高等学校）に地誌学特論と地誌学特論演習（2009（平成 21）年度）の非常勤講師を担当いただいた。また地理教育が専門の吉水裕也先生に自然地理学概説（2009（平成 21）年度～）を担当いただいている。
- 10) HEART の URL は，<http://repository.hyogo-u.ac.jp/dspace/>である。

西暦（年）	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989
和暦（年）	昭和55	昭和56	昭和57	昭和58	昭和59	昭和60	昭和61	昭和62	昭和63	平成元
白井義彦	教授									
成瀬敏郎		← 助教授								→ 教授
藤井宏志			← 助教授							
吉本剛典				← 助手						
西暦（年）	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999
和暦（年）	平成2	平成3	平成4	平成5	平成6	平成7	平成8	平成9	平成10	平成11
白井義彦					●					
成瀬敏郎										
藤井宏志				→ 教授						
吉本剛典			→ 助教授							
南基 猛						← 助手				
西暦（年）	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
和暦（年）	平成12	平成13	平成14	平成15	平成16	平成17	平成18	平成19	平成20	平成21
成瀬敏郎									●	
藤井宏志	●									
吉本剛典						→ 教授				
南基 猛	→ 助教授（准教授）									
西暦（年）	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
和暦（年）	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26	平成27	平成28	平成29	平成30	平成31
吉本剛典										●
南基 猛					→ 教授					

図1 地理学研究室関係教員の動向

出所：兵庫教育大学『研究者一覧』をもとに作成。

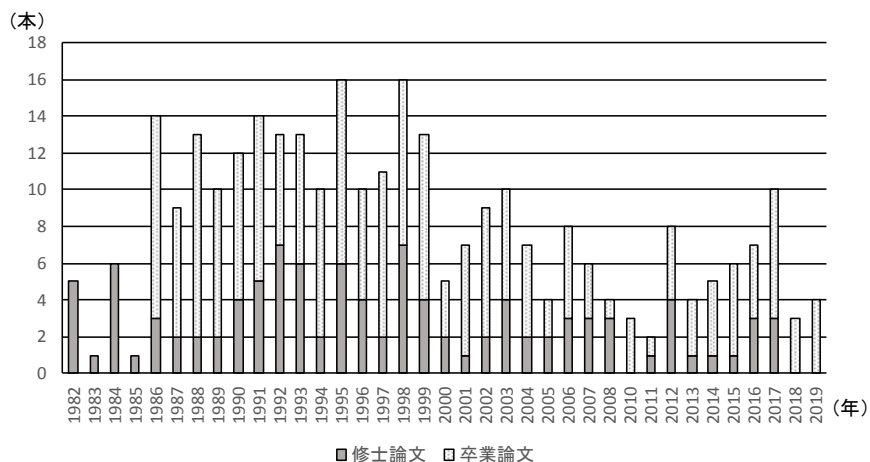


図2 修士論文と卒業論文の推移

出所：本稿資料1と資料2をもとに作成。

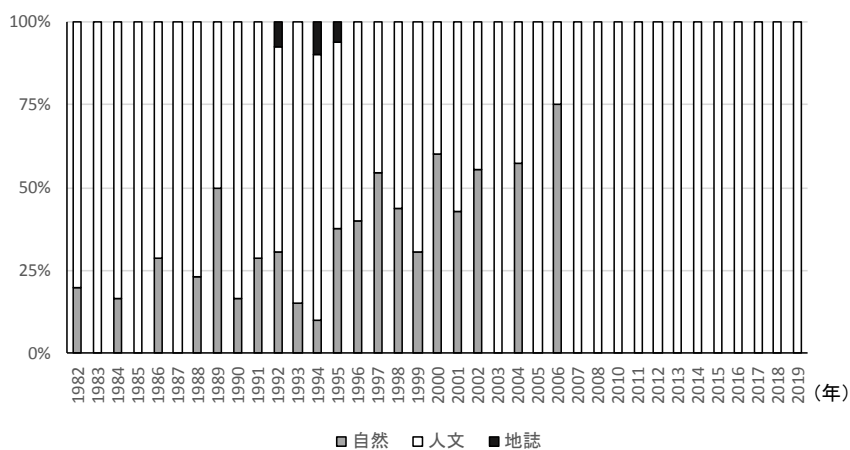


図3 修士論文と卒業論文の分野別割合
出所：図2と同じ。

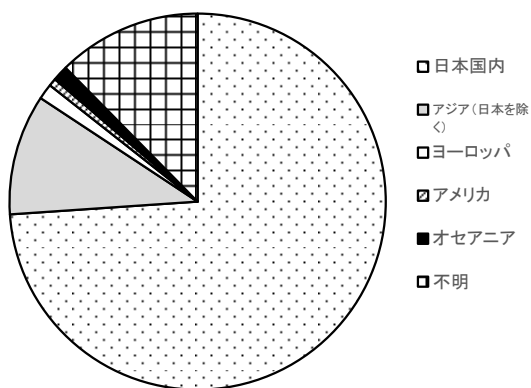


図4 修士論文と卒業論文の研究対象地域
出所：図2と同じ。

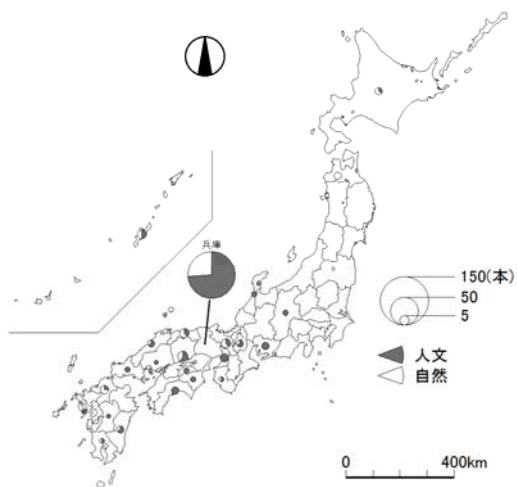


図5 修士論文と卒業論文の日本国内の分野別研究対象地域出所：図2と同じ。



写真1 兵庫教育大学地理学研究室報告



写真2 地理学研究室関係の出版物

資料 1 地理学研究室関係の修士論文一覧

大学院 1 期 (1980 (昭和 55) 年入学)

小野間 正己	播磨平野北東部の地形発達史
河野 勝行	中国自動車道開通に伴う内陸地域の変化:高等学校社会科における地域教材の開発
斉藤 実信	土地改良と地域の発展:兵庫県東条川流域を例とする地域教材の開発
千葉 憲次	播州織物業地域の変貌
山根 明人	酒造業の合理化と出稼ぎ母村:丹波篠山盆地を事例として

大学院 2 期 (1981 (昭和 56) 年入学)

村上 るみ子	ダム建設に伴う水没補償と環境整備:兵庫県呑吐ダムを事例とする中学校社会科教材の開発
--------	---

大学院 3 期 (1982 (昭和 57) 年入学)

伊藤 善文	神戸市域における市街地化の地理学的研究
今村 直樹	兵庫県内陸部の農林資源管理に関する研究
刑部 之康	但馬地方における酒造出稼ぎと地域農業の展開
加藤 正俊	溜池灌漑と水利秩序:兵庫県加西台地の溜池卓越地域を例として
菅野 宏一	都市化地域における農業水利の変化:加古川市域の土地改良区を例として
村上 良典	佐治川流域における治水の展開に関する地理学的研究

大学院 4 期 (1983 (昭和 58) 年入学)

内田 和子	我が国における遊水地の地理学的研究
-------	-------------------

大学院 5 期 (1984 (昭和 59) 年入学)

末吉 良治	沖縄南部石灰岩地域の湧水に関する地理学的研究
高松 武司	明治期における淡河川・山田川疎水事業の展開過程
宮城 能彦	沖縄本島南部農村の構造的特質:東風平町世名城の「門中」を中心に

大学院 6 期 (1985 (昭和 60) 年入学)

飯田 精一	ダム開発と水利調整:兵庫県東条川流域の場合
矢野 真也	早ばつ地帯の水利構造:兵庫県飯盛野疎水地域を中心として

大学院 7 期 (1986(昭和 61) 年入学)

大矢 幸雄	松江・米子都市圏における商業活動の研究
羽賀 公彦	愛媛県銅山川の分水と地域の発展

大学院 8 期 (1987(昭和 62) 年入学)

坪野 賢一郎	紀伊半島南部の完新世における海岸地形の発達
南埜 猛	兵庫県加古台地における水利事業の展開構造

大学院 9 期 (1988(昭和 63) 年入学)

植木 洋一	兵庫県加東台地における水利開発と地域の発展
-------	-----------------------

野呂瀬 秀幸	観光開発と農山村の再編成：八ヶ岳南麓におけるペンション立地を中心として
船本 秀忠	高冷開拓地蒜山原における農業的土地利用の展開構造
三宅 康成	ダム開発と水没補償：神戸市域の吞吐ダムを中心として

大学院 10 期（1989(平成元) 年入学)

赤井 由和	地場産業としての播州釣針工業地域の研究
大谷 正敏	都市化の進展と土地改良区の対応：兵庫県東播土地改良区を例にして
佐溝 理	播磨における稲作の起源と古環境
畠中 伸王	黄河中流域における自然環境の変遷と地形改変
山方 純	溜池の多目的利用と維持管理：播州平野における事例を中心として

大学院 11 期（1990(平成 2) 年入学)

尾崎 文雄	工業化の進展と河川水利の調整：兵庫県高砂市域を事例として
葛西 攻	青森県屏風山砂丘の形成
片岡 正光	井堰構築と水利慣行：近世における加古川流域を例として
塩見 良三	西舞鶴平野の古環境
仲 容生	日本の捕鯨地域史の研究：紀州太地を中心として
松田 至功	圃場整備と地域農業の開発：兵庫県印南野台地を中心として
山本 文彦	兵庫県但馬地域における大型店立地の展開構造

大学院 12 期（1991(平成 3) 年入学)

足立 年樹	西宮市域の都市開発に伴う大規模地形改変
稲山 安生	ブルネイにおけるブミプトラ政策の展開構造
河村 克典	治水事業と洪水絵図：佐波川流域における近世洪水絵図の地域分析を中心として
寒川 忠俊	都市域の拡大と交通システムの変貌：京阪神都市圏を例として
逸見 優一	姫路平野の地形発達史
米澤 伯典	石英粒 SEM 分析による鳥取砂丘の形成に関する研究

大学院 13 期（1992(平成 4) 年入学)

武林 淳	地方都市における祭りの研究：鳥取・米子・松江の祭りを中心として
森 泰三	都市域における人口高齢化の空間的組織

大学院 14 期（1993(平成 5) 年入学)

久保 哲成	ダム建設と水利調整：加古川水系・川代ダム直下流域を対象として
内藤 英一	兵庫県佐治川流域における水利調整の展開
藤野 剛志	資源管理と人間環境系に関する研究：ブルーズ・ミッチェルの地理学と資源分析に基づいて
室谷 茂	政治的意図による地名命名の研究：その背景と影響について
柳 精司	山陰東部と北陸西部における最終間氷期以降の広域風成塵の堆積量
渡口 洋	ハンガリー大平原の研究

大学院 15 期（1994(平成 6) 年入学)

笠木 秀樹	余暇活動における地域スポーツ行動とスポーツ施設の研究：津山市を
-------	---------------------------------

	中心として
竹部 嘉一	南北問題と環境問題の接点に焦点をあてた社会科の内容構成
田中 豊之	滋賀県における大規模宅地開発の展開
山本 善幸	兵庫県瀬戸内海沿岸漁村の研究

大学院 16 期（1995(平成 7) 年入学）

金田 正美	グアテマラにおけるコーヒー生産の地理学的研究
鈴木 裕治	敦賀、中池見湿原における風成塵の堆積と古環境

大学院 17 期（1996(平成 8) 年入学）

北 智裕	市川流域における水利調整と流域管理
杉浦 弘毅	トルコ、アナトリア高原、トゥズ湖沿岸の地形発達
鈴木 宏	太平洋西岸、偏西風帯における風成塵の供給源と古風系
泥谷 智明	南四国の海洋性観光の地理学的研究
藤田 健一	兵庫県地場産業の地理学的研究
本間 達也	太平洋島嶼地域の地理学的研究：パラオ共和国（ベラウ）を事例として
森井 裕史	フィリピン・ネグロス島におけるバナナの経済地理学研究

大学院 18 期（1997(平成 9) 年入学）

吉柳 義雄	福岡県筑豊地区における地域振興の現状：トヨタ自動車工場進出による地域変容
塩谷 裕司	わが国島嶼空間の変容：架橋開通に伴う瀬戸内海中部、田島・横島の地域変化を中心として
藤原 美代子	ベトナム中部ホイアン市の町家における中庭の研究：町並み保存をめぐる動きを通しての一考察
吉井 克行	兵庫県における最終氷期の風成塵の堆積とモンスーン変動

大学院 19 期（1998(平成 10) 年入学）

矢田貝 真一	韓国済州島における最終氷期の風成塵堆積とモンスーン変動
山田 達夫	観光地化された社会における近代学校教育：インドネシア・バリ州の事例研究

大学院 20 期（1999(平成 11) 年入学）

奥村 公英	滋賀県地場産業の地理学的研究：存続理由の考察を中心にして
-------	------------------------------

大学院 21 期（2000(平成 12) 年入学）

小林 学	中国レイ陽平原の自然環境と稲作の起源
蓑輪 貴治	福島県矢の原湿原におけるモンスーン変動の復元

大学院 22 期（2001(平成 13) 年入学）

金崎 正規	都市交通システムにおける路面電車／LRT の地理学的研究：日本とドイツおよび周辺国の現状考察と再評価
黒田 雅秀	架橋と距離短縮に伴う島の地域変化の研究：周防大島と小豆島の比較考察より

時村 孝完	高等教育事情からみるベトナムの地域性：南北間の比較考察から
濱本 晃宏	地図生成プログラムにおける地図投影法の類型と選択可能性：小縮尺地図の変換機能を中心に

大学院 23 期（2002(平成 14) 年入学）

香川 定昭	愛知県の人口分布および用水地域の空間分析
濱田 明利	揖保川流域のたたら製鉄による地形改変

大学院 24 期（2003(平成 15) 年入学）

小橋 拓司	日本における教育 GIS の展開に関する研究
三原 慎吾	日本における博物館の設置と活動の分析と展望□地域社会および学校教育との連携をめざして□

大学院 25 期（2004(平成 16) 年入学）

東 大介	地域社会における少年犯罪の実態と分析□日本とくに大阪府の動向を中心として□
春名 美佳	海浜堆積物からみた石垣島の完新世環境変化
矢田 浩太郎	韓国南西部と西日本におけるレスの特質

大学院 26 期（2005(平成 17) 年入学）

大友 秀一	小学校における GIS の学校安全への応用に関する研究
河野 紘行	初等教育における GIS の援用
梁 海山	中国内モンゴルの地域変化と都市形成に関する地域情報システム

大学院 27 期（2006(平成 18) 年入学）

植原 優子	韓国の映像世界にみる地理空間の再現性
西田 裕子	ネパール中央区における都市・農村の生活様式とその変容
藤尾 智勝	地理分析とコンピュータ利用技術□開発環境とネットワーク・システム□

大学院 30 期（2009(平成 21) 年入学）

陳 長江	内モンゴルにおける観光地域に関する地理学的研究
------	-------------------------

大学院 31 期（2010(平成 22) 年入学）

金 国花	中国雲南省の観光開発と地理的要因
馬 撒仁	中国の農業生産と農産物の輸出入—内モンゴルの農地牧草地の保全のために
吉米斯	中国内モンゴル自治区ウーシン旗における自然環境と社会環境に関する地理学的研究
趙 銀淑	1990 年代以降における中国朝鮮族農村の変容—チーリン（吉林省）チャンパイ（長白）自治区シーアルタオコウ（十二道溝）村を事例に

大学院 32 期（2011(平成 23) 年入学）

紅 蘭	中国の初等教育における「社会」と「品德と社会」の比較研究□モンゴル語版教科書の分析を中心に—
-----	--

大学院 33 期（2012(平成 24) 年入学)

胡日查必力格 中国の退耕還林還草プロジェクトの計画の実際－内モンゴル奈曼旗を中心として－

大学院 34 期（2013(平成 25) 年入学)

原 孝彰 学校教員を対象とした GIS の教育利用促進の検討

大学院 35 期（2014(平成 26) 年入学)

程 琪 日中の学校教育における社会参画に関する考察

村越 政美 AR アプリ「Junaio」を用いた教員研修用教材の開発－兵庫県篠山市を事例に－

渡邊 幸太 ESD の概念を取り入れた溜池学習プログラム－東播磨地域を事例として－

大学院 36 期（2015(平成 27) 年入学)

石井 瑛之 再生可能エネルギー発電の地域的展開－兵庫県東播磨地域の溜池利用－

半田 有哉 桜に関する日本の自然と文化－地理学による桜の美しさの探究－

南 和樹 小中一貫教育における学校の立地展開と社会科の内容構成

資料2 地理学研究室関係の卒業論文一覧

学部1期（1982（昭和57）年入学）

飯村 耕司	加古川大堰建設と河川水利調整
井上 隆治	日生諸島における海岸地形と完新世後期の海水準変動
上里 美和	西脇市の水害に関する地理学的研究
鈴木 裕治	家島諸島の海岸地形と完新世旧海水準
高木 辰也	修正ウィーバー法による東海3県の農業地域区分に関する研究
多武 義也	地場産業丹波立杭焼の地理学的研究
堀池 利夫	高齢化地域の研究－兵庫県但東町を例にあげて－
古川 勝	鉄道を中心とした地方の交通社会の研究－北条線－
的場 徹也	ダム開発と集落移転－石川県白峰村の場合－
三木 達也	地場産業としての姫路皮革産業の地理学的研究
森 晴美	加古川市域における土地改良区の変容

学部2期（1983（昭和58）年入学）

赤松 祐人	加古川三角州の水利
伊庭 克昌	パラオ共和国の観光地理学的研究
岩本 達雄	パラオ産業の地理学的研究
田村 正樹	地場産業としての豊岡鞆産業の地理学的研究
櫛川 尚	パラオ諸島の文化地理学研究
南埜 猛	兵庫県東播地域の水利用
宮原 勝志	地場産業としての児島地区繊維産業の地理学的研究

学部3期（1984（昭和59）年入学）

足立 和宏	農業用水の改良と圃場整備の展開－兵庫県稲美町入ヶ池土地改良区 を例として－
足立 正徳	兵庫県内陸部町村における農村工業の研究
枝木 姿麻子	加古川中流域における沖積平野の地形
加藤 豊裕	姫路平野の地形
清水 真弓	ため池地帯の水管理－兵庫県稲美町入ヶ池土地改良区を例として－
下田 京子	過疎地域における商業活性化の研究
菅野 純郎	兵庫県内陸部町村における観光開発の研究
西原 直人	兵庫県内陸部町村における農業開発の研究
栢田 竜則	揖保川下流平野の地形
三宅 康成	加古川西部農業水利事業の展開－農業用水と工業用水の必要条件の 検討－
吉岡 次郎	高齢化地域の地理学的研究－大屋町の場合－

学部4期（1985（昭和60）年入学）

足立 圭造	台湾の農業の地理学的研究
飯田 恭子	台湾における高山族の研究
井上 由紀	吉井川水系における土地改良の展開
大野 公嗣	兵庫県上部井土地改良区をめぐる治水と利水の展開
谷川 理香	都市化と地域変容－兵庫県上部井土地改良区を事例として－

森山 伯和	宮崎平野の砂堤列の発達史
山田 英樹	東播台地の火山灰と黄色土の生成時期
山本 香	社町の沖積平野の発達と古環境

学部 5 期（1986（昭和 61）年入学）

牛場 智明	都市化と水管理
笠井 和観	兵庫県海外移住者の研究
葛西 秀樹	赤穂市有年原田中遺跡の地形と古環境
後藤田 和成	中町野入遺跡の地形と古環境
柴崎 謙介	東播台地における開拓営農の展開
高橋 雅美	兵庫県海外移住者の研究
平田 尚子	兵庫県海外移住者の研究
横野 吉人	兵庫県海外移住者の研究

学部 6 期（1987（昭和 62）年入学）

浮田 ゆかり	河高氾濫原の地形と古環境
恩田 譲治	山陰海岸における海浜堆積物の特性
河合 ゆかり	圃場整備と地域住民の対応－兵庫県稲美町加古地区の場合－
河本 学	小人口自治体の地理学的研究
重松 久友	小人口自治体の地理学的研究
新野 陽子	都市化と土地改良区の変容－兵庫県東播土地改良区の場合
立花 学	小人口自治体の地理学的研究
板東 美佳	兵庫県加古土地改良区の生成と展開
三ヶ尻 和弘	小人口自治体の地理学的研究

学部 7 期（1988（昭和 63）年入学）

按田 とし子	社町下三草の地形と古環境
運天 和恵	アメリカ合衆国西海岸の日系移民の研究
大月 奈津子	食文化の地理学的研究－塩分摂取量の地域差を中心として
河田 由美	サン・マリノに関する地誌研究
田中 裕貴	社町の土壌 ph について
山本 哲也	都市化の進展による農村集落の変化－兵庫県東播土地改良区を例として

学部 8 期（1989（平成元）年入学）

大野 さち子	水利事業と地域対応－兵庫県淡山疎水の場合－
甲斐 健二	兵庫県におけるゴルフ場立地の地理学的研究
田中 佳代	加西市における工業化の地理学的研究
辻 布美子	水利事業と地域対応－兵庫県東条町長貞地区を例として－
西方 さやか	一ノ宮町の地場産業としての線香製造業の研究
柳 精司	小野市河合氾濫原の地形と古環境
吉永 伸二	明石海峡大橋架橋による地域変化に関する一考察

学部 9 期（1990（平成 2）年入学）

浅井 千華子	明石市の商業地理学研究
--------	-------------

伊藤 浩子	神戸市北区の地誌研究－農業，観光，住宅開発を中心として－
上嶋 智典	加西台地の地形
金田 康児	東播磨平野における溜池の水辺空間の利用
小島 鉄弘	佐治川流域における土地改良事業の展開
徳留 紀子	地理学と資源分析－ブルース・ミッチェルの論考に基づいて
内藤 文子	市川市における工業立地の研究
野田 直子	尼崎市における商業地の研究

学部 10 期（1991（平成 3）年入学）

大植 恵美	社町木梨・北浦遺跡をめぐる古環境
岡 美枝	滝野町における工業立地の研究
楫間 茂樹	山口県における中核都市形成と市町合併の研究
川上 由紀子	西舞鶴平野沖積層の電気伝導度法による古環境の測定
佐伯 幸恵	鳥取県倉吉市の地域研究－観光とトイレ－
高島 紀子	滝野町河高一上ノ池遺跡をめぐる古環境－
田中 正浩	姫路市白浜町の鎖製造業
藤本 晃代	大屋町における町おこし事業の研究
前田 雄二郎	シラス台地に発達する古土壌のプラントオパール分析
宮川 純	社町・今田町における遺跡をめぐる古環境

学部 11 期（1992（平成 4）年入学）

杉浦 弘毅	トルコ，アナトリア高原，カマンカレホユックの下部沖積層について
戸高 真美	トルコ，アナトリア高原，カマンカレホユックの上部沖積層について
林 尚美	丹後半島伊根の舟屋の地理学的研究
泥谷 智明	土佐清水市における観光開発の研究
松尾 聡子	トルコ，アナトリア高原，カマンカレホユックの沖積基底礫層について
圓尾 かさね	トルコ，アナトリア高原，カマンカレホユックの赤色土層について

学部 12 期（1993（平成 5）年入学）

岡本 桂子	大塩平野の形成史
鄒 佾鍾	中国茶に関する研究－台湾・霧社における茶製造を中心に－
清 献一郎	宮崎県における観光開発の地理学的研究
長澤 祥子	白浜平野の形成史
新名 祥弘	広畑平野の形成史
錦織 慎也	兵庫県南部における鉄道交通網の整備と地域の変容
東 章博	十勝平野における最終氷期の古環境
村上 尚広	製紙工業工場立地の研究
吉井 克行	碓岩遺跡の自然環境

学部 13 期（1994（平成 6）年入学）

内田 伸	出雲海岸における最終氷期以降の植生変化
鈴木 健祐	播磨科学公園都市の地理学的研究
鈴木 聡	兵庫県北部におけるスキー場の立地と地域観光
高橋 亜紀子	三田市におけるニュータウンの地理学的研究

田中 聡	北海道苫前における最終氷期以降の植生変化
千代反田 聡	下北半島における最終氷期以降の植生変化
前田 浩二	韓国黄土の粒度組成からみた偏西風の変動
道端 淳	関西国際空港建設による地域変化の研究
吉田 さゆり	鳥取砂丘, クロスナ中のプラントオパール分析

学部 14 期 (1995 (平成 7) 年入学)

稲田 悦子	加古川流域の河川敷利用と水辺空間の研究
鎌倉 淳	兵庫県における地域間交流とコミュニケーション空間の展開
上川 千賀子	山陰海岸における最終氷期以降の植生変化
萱原 浩	兵庫県におけるスキー場の整備過程—千種スキー場を中心に—
鈴木 由紀	青森・秋田両県の日本海岸における最終氷期以降の植生変化
高松 宏樹	九州におけるレス状堆積物中のプラントオパールについて
中村 太一	航空交通による地域間凍結の現状と課題—北海道を中心として—
平本 明子	明石市林崎漁港における漁港空間の研究
松本 充世	姫路市観光発展の研究

学部 15 期 (1996 (平成 8) 年入学)

青木 敢也	明石平野の地形発達
荒川 文雄	姫路市岡田湧水の地理学的研究
中西 弘一	石川県金沢市における観光調査

学部 16 期 (1997 (平成 9) 年入学)

池田 宏美	物語作品の想像空間と地理空間の再構成
栗原 由利子	年齢別人口分布からみた兵庫県の地域特性
小越 周平	西脇の自然環境
坂本 勝志	笠岡湾干拓に関する地理学的考察
堀 慎一郎	姫路平野南部の地形発達
渡邊 亜希子	西アジアの気候変化と文明

学部 17 期 (1998 (平成 10) 年入学)

秋定 辰昌	総合スポーツ施設の整備計画と立地機能—長野県菅平と神戸市しあわせの村
稲津 寛子	最終氷期における氷上盆地の古環境
菅原 弘貴	社町台地の地形発達史
杉山 修平	地図検索システムの開発と利用環境の整備
戸部 美紀	赤穂平野の地形と開発過程
松本 由紀	千種川中流域の地形
山田 雅彦	ゴルフ場開発と地域変容に関する—考察—宮崎県門川町を事例に—

学部 18 期 (1999 (平成 11) 年入学)

赤木 一成	高速バスによる都市間連結ネットワークの形成と変化
浅川 葉木	祭りを通してみる社町の地域性
小幡 美佳	沖縄における戦跡観光に関する地理学的研究
酒井 頼子	都市近郊地域における憩い空間の創造—神戸市北部のレクリエーション

	ヨン公園ー
重内 俊介	千種高原スキー場の立地と展開ー西播磨北西部の観光開発と地域振興
竹森 伸二	鹿児島県離島の現状と課題ー地域の自律と学校教育の持続性を探る

学部 19 期 (2000 (平成 12) 年入学)

高尾 美賀子	香川県中央部綾上町におけるうどん産業の展開
福井 奈菜	播磨地域における広域公園と近隣公園の立地と利用動向
福岡 武史	兵庫県における縄文時代の遺跡分布とその背景
藤原 裕司	粒度分析から見る播磨平野の古環境
矢田 浩太郎	社町の地形

学部 20 期 (2001 (平成 13) 年入学)

岡田 恵	京都の観光資源と巡回モデルコースの立案
木元 可南	加古川市中野村における坪刈の研究

学部 21 期 (2002 (平成 14) 年入学)

岡本 明子	山崎断層と福崎町の防災対策に関する研究
小谷 友紀	沖縄の風土と文化に基づいた観光の展開
谷川 歩	エルニーニョ現象とその影響
森田 紀史	鳥取県淀江町海岸の鉄穴流しによる地形変化
藪田 侑亮	日本の高速道路網の発達

学部 22 期 (2003 (平成 15) 年入学)

伊藤 友佑	都市内自動車交通の特性と課題ー大阪の路上駐車を中心に
大塚 翔	兵庫県におけるゴルフ場の分布と立地の研究
元 美香子	神戸市内の小学校の立地と児童数の変動に関する考察

学部 23 期 (2004 (平成 16) 年入学)

宮崎 喜子	オランダの自然と農業の発展
-------	---------------

学部 25 期 (2006 (平成 18) 年入学)

市村 真希	ライフステージからみた観光地の選好と観光行動の実際
藤田 透	日本の野球場の立地とその地域展開
今田 健太郎	加東市におけるコンビニエンスストアの立地と展開

学部 26 期 (2007 (平成 19) 年入学)

徳田 章栄	デジタルカメラによる空間の認識と景観の記録
-------	-----------------------

学部 27 期 (2008 (平成 20) 年入学)

笠原 ちなみ	修学旅行と個人旅行の経験と構成
岸本 佳奈子	中学校社会科地理分野での開発教育実践の研究ー学生団体の活動を例として
平高 佑太郎	多自然居住地域におけるまちづくりの成果と課題ー北播磨北部地域を対象として

妙見 健太郎 初等社会科教育における GIS の活用と実践

学部 28 期 (2009 (平成 21) 年入学)

安藤 光紀 食育活動を取り入れた小学校社会科の授業実践
大西 智史 兵庫県のスキー・スノーボード場の立地展開とレクリエーション機能
兵頭 千絵 小学校における地球儀を効果的に活用した授業づくり

学部 29 期 (2010 (平成 22) 年入学)

高瀬 悠一郎 新幹線と新幹線網の変遷と発達
多田 美咲 美術館と絵画芸術－大塚国際美術館の時間と空間－
柳田 敬史 自然環境の中の人間と教育－沈黙の春からセンス・オブ・ワンダーへ
山本 里保 姫路市の小学校と地域学習

学部 30 期 (2011 (平成 23) 年入学)

島津 雄太郎 加東市の溜池の名称と地域のイメージ
住元 麻耶 神戸港をめぐる時間と空間－歴史的発展と地理的世界－
富田 いずみ 沖縄県における観光と平和教育－修学旅行に注目して－
古谷 彰梧 兵庫県播磨地域の古墳の現在
南 和樹 兵庫県北播磨地域の飲食店の立地と学生の動向

学部 31 期 (2012 (平成 24) 年入学)

北川 淳也 鉄道駅の立地と周辺地域の変化－兵庫県姫路駅とはりま勝原駅に注目して－
坂本 夏奈 稲美町における溜池の安全対策と住民イメージ
鈴木 孔明 社会の中の交通－自動車を中心として－
山川 友貴 四国遍路の変容と地域の取り組み

学部 32 期 (2013 (平成 25) 年入学)

生友 駿 アニメ作品の世界にみる地理空間の再現性－京都アニメーション『氷菓』と『けいおん』の分析
北野 敬寛 東播磨地域の溜池に残された伝説－現代のフィールドワークからの観照－
芝地 素直 小中学校の防災・減災教育と溜池ハザードマップの利用－神戸市西区岩岡町を事例として－
玉脇 健太 山陰海岸ジオパークの実際とガイド活動の展開－兵庫県豊岡市に着目して－
中川 貴普 空想と現実の世界をめぐるアニメのメディア展開
春風 直樹 鉄道と鉄道写真の展開－近現代の社会と個人の経験－
宮崎 琴葉 旅から広がる世界の理解－南相馬からオーストラリアへ－

学部 33 期 (2014 (平成 26) 年入学)

下勝 和樹 小学校社会科における地域学習と地域教材開発
高見 佳樹 土地の測量と社会の中の基準点－国土と歴史に対する理解を深めるために－
山路 正志 日本の道路と自動車の現在－兵庫県の道路走行および自動車とミニ

カーの遠近望

学部 34 期（2015（平成 27）年入学）

大江田 美奈	熊本城を取り巻く熊本市の景観形成
草野 なつみ	エトランジェールのヨーロッパツアーリズム
増本 和希	長崎地方の地域資源と歴史遺産
目叶 和希	神社の成り立ちを巡る散策ー兵庫県神戸市を中心としてー

資料3 研究報告掲載論文等タイトル一覧（第11～24号）

第11号（2006年）

〔巻頭言〕

成瀬 敏郎 韓国黄土について

〔修士論文〕

赤江 和江 沖縄とギリシャの「土」をめぐる風土の研究
矢田 浩太郎 西日本と韓国におけるレスの起源とその特性
渡邊 浩司 「学習意欲の向上」を目的とした数学学習の取り組み
東 大介 地域社会における少年犯罪の実態と分析ー日本とくに大阪府の動向を中心としてー
三田 至充 兵庫県における高等学校の動向と関係地域の活性化ー加古川下流部，高砂市を中心とした分析と展望ー

〔卒業論文〕

岡本 明子 山崎断層と福崎町の防災対策に関する研究
谷川 歩 アジア農業へのエルニーニョ現象の影響
森田 紀史 鳥取県淀江町海岸の鉄穴流しによる地形変化
小谷 友紀 沖縄の風土と文化に基づいた観光の展開
藪田 侑亮 日本の高速道路網の発達

第12号（2007年）

〔巻頭言〕

成瀬 敏郎 中国黄土高原ー洛川と宝鶏ー

〔修士論文〕

春名 美佳 海浜堆積物からみた石垣島の完新世環境変化
黒堀 大輔 国際貿易港としての浜田港の研究
斎藤 達夫 兵庫県中野村坪刈記録にみる稲収量と気候の関係
溝部 雄介 中国山地脊梁部における3万年前以降の人類の活動とその自然的背景
梁 海山 中国内モンゴルの地域変化と都市形成に関する地域情報システム（GIS）分析

〔卒業論文〕

伊藤 友佑 都市内自動車交通の特性と課題ー大阪の路上駐車を中心に
元 美香子 神戸市内の小学校の立地と児童数の変動に関する考察
大塚 翔 兵庫県におけるゴルフ場の分布と立地の研究

第13号（2008年）

〔巻頭言〕

成瀬 敏郎 40年余の研究生活を振り返って

成瀬敏郎先生研究業績（1981年以降の主な著書・学術論文）

〔修士論文〕

大友 秀一 小学校におけるGISの学校安全への応用に関する研究

河野 紘行	初等教育における GIS の援用
曾我 とも子	福原遷都の風水地理学的研究
西田 裕子	ネパール中央区における都市・農村の生活様式とその変容
藤尾 智勝	地理分析とコンピュータ利用技術－開発環境とネットワーク・システム－

[卒業論文]

今田 健太郎	加東市におけるコンビニエンスストアの立地と展開
宮崎 喜子	オランダの自然と農業の発展

第 14 号 (2009 年)

[巻頭言]

吉本 剛典	地理学研究室の近況ならびに、地理学の考え方や方法について
-------	------------------------------

[論文]

植原 優子	韓国の映像世界にみる地理空間の再現性
廣中 悠里子	母性保護論争における与謝野晶子
陳 長江	内モンゴル自治区の観光開発に関する地理学的研究・序説
梁 海山	退耕還林還草政策による社会経済と土地利用変化の地域分析－中国国内モンゴル通遼市を事例に－

第 15 号 (2010 年)

[論文]

市村 真希	ライフステージからみた観光地の選好と観光行動の実際
藤田 透	日本の野球場の立地とその地域展開

[研究ノート]

吉本剛典・南埜 猛	教育実践のための地図情報処理システムの構築
-----------	-----------------------

第 16・17 号合併号 (2012 年)

[巻頭言]

吉本 剛典	地理学研究室の近況ならびに、地理学の考え方や方法について
-------	------------------------------

[論文]

陳 長江	内モンゴルにおける観光地域に関する地理学的研究
金 国花	中国雲南省の観光開発と地理的要因
馬 撒仁	中国の農業生産と農産物の輸出入－内モンゴルの農地牧草地の保全のために
吉米斯	中国内モンゴル自治区ウーシン旗における自然環境と社会環境に関する地理学的研究
紅蘭	中国の初等教育における「社会」と「品德と社会」の比較研究－モンゴル語版教科書の分析を中心に－
徳田 章栄	デジタルカメラによる空間の認識と景観の記録
笠原 ちなみ	修学旅行と個人旅行の経験と構成
岸本 佳奈子	中学校社会科地理分野での開発教育実践の研究－学生団体の活動を例として－
平高 佑太郎	多自然居住地域におけるまちづくりの成果と課題－北播磨北部地域を対象として－

妙見 健太郎 初等社会科教育における GIS の活用と実践

第 18 号 (2013 年)

[巻頭言]

吉本 剛典 地理学研究室の近況とこれから

白井義彦先生研究業績 (主な著書・学術論文)

[論文]

- 趙 銀淑 2000 年代における中国朝鮮族の動向ーチーリン省(吉林)チャンパイ(長白)朝鮮族自治州を事例にー
- 紅蘭 中国少数民族地域における初等教育社会系教科の実態ー内モンゴル自治区ナイマン旗ゴリバンホア中心小学校を事例にー
- 兵頭 千絵 小学校における地球儀を効果的に活用した授業づくり
- 安藤 光紀 食育活動を取り入れた小学校社会科の授業実践
- 大西 智史 兵庫県のスキー・スノーボード場の立地展開とレクリエーション機能書

第 19 号 (2014 年)

[巻頭言]

吉本 剛典 地理学研究室の近況ならびに, 大学院と学部の授業科目について

[論文]

- 高瀬 悠一郎 新幹線と新幹線網の変遷と発達
- 多田 美咲 美術館と絵画芸術ー大塚国際美術館の時間と空間ー
- 山本 里保 姫路市の小学校と地域学習
- 柳田 敬史 自然環境の中の人間と教育ー沈黙の春からセンス・オブ・ワンダーへ
- 趙 銀淑 2000 年代以降における中国朝鮮族農村の変容ーチーリン(吉林)省チャンパイ(長白)朝鮮族自治州シーアルタオコウ(十二道溝)村を事例にー
- 原 孝彰 小中学校における防災教育の実践課題に関する一考察
- 胡日査必力格 中国の退耕還林還草プロジェクトの計画と実際ー内モンゴル奈曼旗を中心としてー

[研究ノート]

南埜 猛 日本の溜池 I

第 20 号 (2015 年)

[巻頭言]

吉本 剛典 演繹 (deduction) 帰納 (induction) アブダクション(abduction)と教員養成スタンダード

[論文]

- 島津 雄太郎 加東市の溜池の名称と地域のイメージ
- 住元 麻耶 神戸港をめぐる時間と空間ー歴史的発展と地理的世界ー
- 富田 いずみ 沖縄県における観光と平和教育ー修学旅行に注目してー
- 古谷 彰梧 兵庫県播磨地域の古墳の現在
- 南 和樹 兵庫県北播磨地域の飲食店の立地と学生の動向
- 村越 政美 日本とドイツのごみ問題に対する制度と意識の関係性ー市町村, 事

渡邊 幸太	業者、消費者の取り組み
原 孝彰	東播磨地域における溜池と小学校との関わり
[書評]	学校教員を対象とした GIS の教育利用促進の検討
程 琪	唐木清志・藤原孝章・西村公孝著：『社会参画と社会科教育の創造』

第 21 号 (2016 年)

[巻頭言]	
吉本 剛典	兵庫教育大学はどこから来たのか、何者か、どこへ行くのかー地理学研究と地理学研究室は不滅です
[論文]	
北川 淳也	鉄道駅の立地と周辺地域の変化ー兵庫県姫路駅とはりま勝原駅に注目してー
坂本 夏奈	稲美町における溜池の安全対策と住民イメージ
鈴木 孔明	社会の中の交通ー自動車を中心としてー
山川 友貴	四国遍路の変容と地域の取り組み
石井 瑛之	再生可能エネルギーにおける「内発型」・「外来型」の有効性
南 和樹	地理学の研究テーマを巡るー修士論文のテーマを求めてー
程 琪	日中の学校教育における社会参画に関するー考察
村越 政美	AR アプリ「Junaio」を用いた教員研修用教材の開発ー兵庫県篠山市を事例にー学校教員を対象とした GIS の教育利用促進の検討
渡邊 幸太	ESD の概念を取り入れた溜池学習プログラムー東播磨地域を事例としてー
本岡良太	小学校社会科における GIS 活用に向けたー考察
[書評]	
半田 有哉	萩野善之著：『見直したい日本の「美」 日本 桜の名所 100 選』
[研究ノート]	
南埜 猛	日本の溜池 II

第 22 号 (2017 年)

[巻頭言]	
吉本 剛典	社会における地理学研究的意味
[論文]	
生友 駿	アニメ作品の世界にみる地理空間の再現性ー京都アニメーション『氷菓』と『けいおん』の分析ー
北野 敬寛	東播磨地域の溜池に残された伝説ー現代のフィールドワークからの観照ー
芝地 素直	小中学校の防災・減災教育と溜池ハザードマップの利用ー神戸市西区岩岡町を事例としてー
玉脇 健太	山陰海岸ジオパークの実際とガイド活動の展開ー兵庫県豊岡市に着目してー
春風 直樹	鉄道と鉄道写真の展開ー近現代の社会と個人の経験ー
石井 瑛之	再生可能エネルギー発電の地域的展開ー兵庫県東播磨地域の溜池利用ー
半田 有哉	桜に関わる日本の自然と文化ー地理学による桜の美しさの探究ー

南 和樹 小中一貫教育における学校の立地展開と社会科の内容構成－兵庫県
の小中学校と教科書の分析

第 23 号 (2018 年)

[巻頭言]

吉本 剛典 地理的見方・考え方および社会認識あるいは世界認識のための次
元思考

[論文]

中川 貴普 空想と現実の世界をめぐるアニメのメディア展開
宮崎 琴葉 旅から広がる世界の理解－南相馬からオーストラリアへ－
高見 佳樹 土地の測量と社会の中の基準点－国土と歴史に対する理解を深め
るために－
山路 正志 小中学校の防災・減災教育と溜池ハザードマップの利用－神戸市
西区岩岡町を事例として－
玉脇 健太 日本の道路と自動車の現在－兵庫県の道路走行および自動車とミ
ニカーの遠近望

第 24 号 (2019 年)

[巻頭言]

吉本 剛典 主体的・対話的で深い学びの足元
兵庫教育大学／大学院と地理学研究室のクロニクル
吉本剛典ゼミ卒業研究（卒業論文）修士論文題目
略歴
私の学生時代（兵庫教育大学「学園だより」

[論文]

大江田 美奈 熊本城を取り巻く熊本市の景観形成
草野 なつみ エトランジェールのヨーロッパツーリズム
増本 和希 長崎地方の地域資源と歴史遺産
目叶 和希 神社の成り立ちを巡る散策－兵庫県神戸市を中心として－
岳 碧琳 日本と中国のモータリゼーションに関する地理学的研究
傅 嘉琪 高等学校地理基準に関する日中比較研究

[研究ノート]

伊藤 善文 次代の教員に伝えたい私の地理教育－地理的見方・考え方の育成、
これまでとこれから－
笠木 秀樹 地域資源と観光 観光振興による地方創生

[書評]

石井 瑛之 井田仁康〔編〕：『教科教育における ESD の実践と課題』

[資料]

南埜 猛 兵庫教育大学地理学研究室における研究動向

（第 1 号から第 10 号までの研究報告掲載論文等タイトル一覧は、第 10 号に掲載）